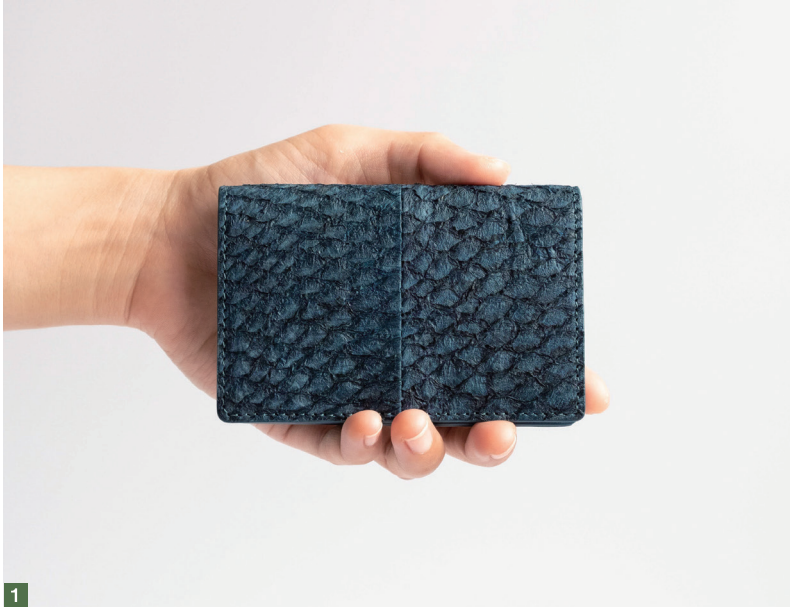

1. tototoの製品。公式オンラインショップや藤巻幸大氏が展開する藤巻百貨店などで販売
2. 野口朋寿氏。海も魚もモノづくりも大好きだったという
3. フィッシュレザーの制作期間は約1カ月。さらに縫製作業等を含むと約2カ月かけ製品は完成

企業紹介
Sustainable Development Goals and Gift

廃棄される魚の皮から財布や名刺入れを製造・販売 持続可能なモノづくりを続けるフィッシュレザーブランド

tototo

tototoは廃棄される魚の皮を「フィッシュレザー」に生まれ変わらせ、その革を用い財布や名刺入れ、スマートフォンケースなどの革小物製品を製造・販売するブランド。代表の野口朋寿氏の環境、そしてモノづくりへの熱い想いと情熱からこのブランドは誕生した。

野口氏とフィッシュレザーとの出会いは大学時代に遡る。

富山大学で漆工芸を学ぶ一方、趣味でレザークラフトにも取り組んでいた野口氏は、大学の卒業研究で漆とレザーを組み合わせた製品作りに挑戦していた。そうした中で、生の皮を丈夫な革へと加工する「なめし加工」の技術を知り、「魚の皮もレザーにできるだろうか」と考えたという。

その後、ネット記事などを参考に魚の革作りに取り組んだ。魚の脂や臭いに悩まされ「当初は干物のようなものしかできず」（野口氏）、なかなかうまくいかなかったが、富山県の氷見市で、地元で取れた魚の皮を使ってサンダル作りを進めるプロジェクトがあることを知ると、早速参加。地元の釣り名人や漁師や鮮魚店などから魚の皮の提供を受け、また研究機関やなめし職人などの様々な専門家の協力を得ながら、三年もの間、試行錯誤を続けた。

そして、2018年野口氏はついに魚臭くない、丈夫でしなやかなフィッシュレザーの開発に成功した。

2019年11月にクラウドファンディングに挑戦。目標の120万円を大きく超える金額が集まり、自らなめしたフィッシュレザーから作られた財布や名刺入れが支援者の元に届けられた。支援者からは「想像よりずっと丈夫」「魚とは思えない」といった品質を賞賛する声、また廃棄される魚の皮を使っており、廃棄物を増やさず、製造のために動物を傷つけないこと、また加工に化学薬品ではなく、植物由来の成分を使っているなど地球環境に優しい製品であることに共感する声も多く届いた。

2020年には本格的にブランドを立ち上げ、オンライン販売をスタート。当初は地元住民からの購入が多かったが、現在ではその知名度や人気は全国に広まっている。ギフト需要も高く、2割程度はギフトとして購入されているという。

「ブランド名には、魚を表す〝魚々（とと）〟という言葉にもう一文字〝と〟を加え、『〝魚々と〟私たちが共存するより豊かな未来を創っていく』という想いを込めました。そうした考えに共感いただき、大切な方に贈られるという方も多くいらっしゃいます。また、tototoにはブリの皮を使った名刺入れがありますが、ご存知の通り、ブリは出世魚。就職祝いなどに『縁起物』としてもご好評いただいています。今後も、tototoを通して、海や環境について考えるきっかけを提供していけたらそれに勝る喜びはありません」（野口氏）